

# 外国語教育における観点別評価・たたき台（イメージ）案

平成28年3月22日  
 教育課程部会  
 外国語ワーキンググループ  
 資料 6

評価の観点(論点整理)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校 外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、簡単な語句や表現などの外国語を聞いたり言ったりしている。</li> <li>○外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語との音声の違いに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりして表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>○言語や文化に対して興味関心を持って、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
小学校 外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について、定型表現など実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。</li> <li>○外国語の学習を通じて、言語の仕組み(音、単語、語順など)や、その背景にある文化などに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○馴染みのある定型表現を使って、自分のことや気持ち、身の回りのことなどについて質問したり答えたりするなどして表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> <li>○言語や文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
中学校 外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。</li> <li>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合っている。</li> <li>○聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</li> <li>○言語やその背景にある文化に対する関心を持って、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>
高等学校 外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語の4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。</li> <li>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場面、目的、状況等に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。</li> <li>○聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</li> <li>○言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>

## 観点別学習状況の評価について

- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
  - 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。
- ⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

### 学力の3つの要素と評価の観点との整理

### 学習指導と学習評価のPDCAサイクル

【現行】

#### 学習評価の4観点

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

【以下の3観点に沿った整理を検討】

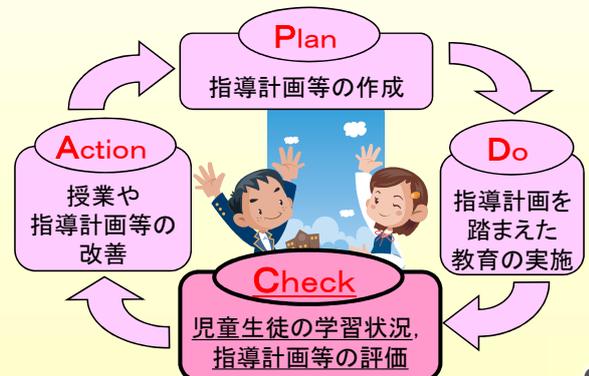
#### 学力の3要素 (学校教育法) (学習指導要領)

知識及び技能

思考力・判断力  
・表現力等

主体的に学習に  
取り組む態度

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。
- 指導と評価の一体化**



# 観点別学習状況の評価と学習到達目標との関係

英語教育の在り方に関する  
有識者会議（H26年9月）

## 学習到達目標

各学校において、「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標を設定することにより、これを観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」及び「外国語理解の能力」の観点の評価に生かすことが期待される。

各学校は学習指導要領に基づき、単元ごとの学習到達目標を設定、目標に沿った指導及び評価を実施

※ 学習指導要領の目標は①言語や文化に対する理解を深め、②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、③「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などのコミュニケーション能力を養うこと

「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、学習到達目標のうち、技能に関する目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に記述

## 観点別評価

指導と評価の一体化を通じて、学習指導の改善や児童生徒に応じたきめ細かな指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが趣旨

コミュニケーション  
への関心・意欲・態度

外国語表現  
の能力

外国語理解  
の能力

言語や文化  
についての  
知識・理解

観点別学習状況の評価においては、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」及び「言語や文化についての知識・理解」の観点と併せて、学習指導要領に示す外国語科の目標に照らして、その実現状況の評価を着実に実施することが必要

CAN-DOリスト形式の目標は、観点別学習状況の評価のうち、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」の評価について活用するのに適していると考えられる。その際、学習到達目標に対応した学習活動の特質等に応じて、多肢選択形式等の筆記テストのみならず、面接、エッセイ、スピーチ等のパフォーマンス評価、活動の観察等、様々な評価方法の中からその場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択することが重要。

観点別学習状況の評価における「関心・意欲・態度」は、「他の観点に係る資質や能力の定着に密接に関係する重要な要素である」とされ、4つの観点は、単元における学習と一体的に評価が行われることが必要。例えば、「外国語表現の能力」として「～できる」とする観点から評価を行う事項を、「関心・意欲・態度」の項目として「～しようとしている」という表現に置き換え、その単元における両面からの評価を行うことによって、生徒がコミュニケーションへの関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身に付けているかどうかを評価。

出典：『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形で学習到達目標設定のための手引き』、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告書）」（平成22年3月24日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会）から作成

## （参考）観点別学習状況の評価における外国語科の評価の観点

### 基本4観点

#### ○関心・意欲・態度

各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもの

#### ○思考・判断・表現

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味している。  
つまり「表現」とは、(略)思考・判断した課程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としている。

#### ○技能

「技能・表現」については、例えば社会科では資料から情報を収集・選択して、読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とをまとめて「技能・表現」として評価してきた。  
今回の改訂で設定された「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されることとなった。

#### ○知識・理解

各教科において習得した知識や重要な概念を理解しているかどうかを内容としたもの

### 外国語科における4観点

#### ○コミュニケーションへの関心・意欲・態度

コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。

#### ○外国語表現の能力

外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。

#### ○外国語理解の能力

外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。

#### ○言語や文化についての知識・理解

外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

出典：評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 外国語）から作成